

2008年1月29日(火) 17:30~18:15

【出席者】

取締役 副社長執行役員	下宿 邦彦
取締役 常務執行役員	浜岡 純治
経理財務部長	小酒井 健吉

【売上 / 売上原価について】

Q / 合併前の中間決算時に特約店への送品を前倒しし、流通在庫を増加させた反動が第3四半期に出ているのか？ 売上の進捗が順調なのは、営業の現場レベルで合併後の統合が混乱なく順調に進んでいるという理解で良いのか？

A / 合併後は、きわめて順調に進んでいる。第3四半期(10月~12月)だけをみると、実消化は順調に伸びているが、売上は対前年同期で若干減少しており、それは在庫調整に起因するものである。

Q / 第4四半期のレミケードの売上は、64億円を予想している(第3四半期財務・業績の概況18ページ)。第3四半期は対前年同期比+45%の実績であるのに、第4四半期は+17%に落ち込む計算になる。これは理由として提携先がライセンス契約のCOC条項を行使することによる影響か？

A / 通期の業績見込みを変更していないため、個別品目毎の売上予想も見直していない。中間決算発表時(11月1日)に開示した品目売上予想を通期見込みとしてそのまま示した。レミケードは順調にきているので、通期は少し上振れする可能性があると考えている。ライセンス契約は変わっていない。

Q / レミケードの市場拡大再算定が4月にあるのか？ 当局から通知は届いていないのか？

A / 薬価改定に関する質問については、告示前なので回答は差し控える。

Q / レミケードが好調だった要因に、エンブレルの副作用問題は影響しているのか？

A / 影響があるとは考えていない。昨年11月に承認を取得したクローン病維持療法剤の効能追加も寄与し、順調に伸びていると理解している。

Q / 海外子会社の売上が伸びている要因は？ 三菱製薬(広州)が好調なのか？

A / 三菱製薬(広州)、ウェルファイド コリアも好調だが、最も影響が大きいのはタナベ ヨーロッパの化成品である。

Q / 粗利率が下がっている理由としてレミケードの増収に加え、ワクチンも影響していると考えてよいのか？

A / その通り。ミールビックも順調に伸びているので、その分の製品構成の差も原価率上昇に影響している。

Q / ローコールの第3四半期までの売上実績は？ また、通期予想の変更は？

A / 実績は 37 億円。通期予想は変更していない。

Q / ローコールに関するノバルティスファーマとの協業枠組み変更による売上減少は、合併に伴う潜在的ディスシナジー50 億円に織り込み済みか？

A / 潜在的ディスシナジー50 億円の中にローコールは想定していなかった。

【販売費及び一般管理費について】

Q / (第3四半期財務・業績の概況 17 ページの)販管費の「その他」項目を計算すると、第4四半期の予想は 200 億円ということになる。何か特殊な要因があるのか？ 四半期毎に「その他」の実績をみると130~150 億円レベルなのに、第4四半期だけが200 億円と大きくなっている。この背景を教えてください。

A / 通期の業績見込みを変更していないため、販管費の予想も見直していない。通期見込みと第3四半期までの実績との差額 200 億円を第4四半期の見込みとしているわけではない。第3四半期は第2四半期と比べてのれん償却費が入っているので増額になるはずであるが、費用発生の状況を見てみると研究開発費、販売経費が予算に比べて進捗率が低い状況にある。合併後、10~12 月であまり費用発生がなかった分が1月~3月にある程度まとめてでる。それにのれんの償却が加わる。それ以外の特殊要因は考えていない。

Q / 第3四半期のその他の販管費の予想はもともといくらか？

A / 四半期予想は公表していない。

Q / 通期予想に対する販管費の進捗率が低いのが、単純に第4四半期にずれ込んだだけなのか？ それとも予算の策定が甘めに設定されていたのか？

A / 現段階では解析できていない。下期予算は、合併前の8月に両社別々に策定して単純合算し、その後に早期退職に伴う人件費の削減など合併シナジーを織り込んでいるが、その効果が予想以上に出ているのかもしれない。

ご参考までに、単体ベースで、第3四半期は第2四半期に比べ、46 億円減少している。第3四半期は増加要因としてのれん償却費を25 億円計上していることを織り込むと、実質、第2四半期に比べ70 億円弱減少している。研究開発費等で予算に比べ若干下振れするという感触は得ているが、どの程度下振れするかは現段階では確度高く見通すことは困難である。

Q / 研究開発費は開発の遅れにより費用が先送りされているということか？

A / 研究開発の戦略の見直しについては、中期経営計画のなかで選択と集中の検討がなされている。その結論によっては研究開発費を見直すこともあるが、現時点では費用の発生のずれである。

【特別損益について】

Q / 特別損失の通期で 101 億円の計画は変える必要はないか？

A / 今のところ変えることは考えていない。C型肝炎訴訟の決着によってはさらに特別損失を計上することもあり得るが、国との負担割合が決まっていないので現時点ではわからない。

Q / 合併関連費用の 64 億円が予定通り計上されると考えてよいか？

A / 結構です。

【開発パイプラインについて】

Q / メドウェイが 12 月に発売されなかったのは、薬価交渉に時間がかかっていると推測しているが、交渉はかなり厳しいのか？

A / コメントは差し控えたい。

Q / メドウェイの現状は？

A / バイファの工場で、現在すでに本格生産を開始している。工期が長いのでまだ中間製品である。今年の春に薬価収載して上市できるよう鋭意とり進めている。

Q / ノバスタンの中国開発中止について、当局が認めなかった理由は？

A / ノバスタンの治験での対照薬が適当でなかったというのが当局の見解である。中国ではまだ特許を取得していなかった。当社で開発に入った中国国内企業が先に承認を取得して、先行して販売を開始している。今から中国で後発品として、当局の指示に基づいて、別の対照薬で試験を行い上市させるメリットはないと判断した。

Q / 今後の中国での開発を考えていく上で、中国での開発は難しいと考えているのか、それともこの件は特殊ケースと考えているか？

A / 中国での開発は難易度が高いと認識している。しかし市場は大きい伸びが期待されているので、ハードルは高いが乗り越えたいと考えている。

【中期経営計画について】

Q / 中期経営計画について、2010 年度の売上目標等も含めた数値目標も検討の対象になるのか？ これを変えずに内容を検討するのか？

A / 昨年 5 月に発表した 2010 年度経営目標は、中期経営計画を策定するにあたり、目標としてあらためて掲げ、実現するための具体的な方策等の検討に入っている。足元の状況等も踏まえてこれを裏付ける具体的な計画が仕上がるかどうかやってみないとわからない。

【ジェネリック事業について】

Q / ジェネリック事業の準備状況は？

A / 昨年承認を取得した4成分9規格については既に販売を開始している。また、今年4月の販売子会社設立に向け準備が進んでおり、子会社の概要が固まり次第発表する予定である。

Q / 第3四半期のジェネリック事業の売上は？

A / まだプロモーションを開始していないので、売上は僅かである。

Q / ジェネリック事業を進める上で、買収も1つのオプションであるという考えに変わりはないか？

A / アライアンスも含め、2010年度100億円の売上を目指すという考えに変わりはない。

【合併シナジーについて】

Q / 第3四半期の売上シナジー、コストシナジーは？

A / 下期で売上シナジー7億円、コストシナジー8億円の見通したが、第3四半期ではコストシナジーが3億円程度の実績である。

Q / シナジー効果は2010年度の目標に対して順調な進捗と見て良いのか？

A / 経営基盤の強化を目的に構造最適化プロジェクト、要員適正化プロジェクトを設置し、コストシナジー200億円という目標を実現するために具体的なプランについて検討を開始したところである。

以上